

十和田の火山活動解説資料（令和元年9月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2、図3）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

10月4日（期間外）に一時的に中湖付近を震源とする地震が増加しました。最大規模の地震は、20時27分頃に発生したマグニチュード2.8の地震で、十和田周辺の施設への聞き取り調査によると、この地震により体を感じる揺れがあったとのこと。その他の観測データには特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

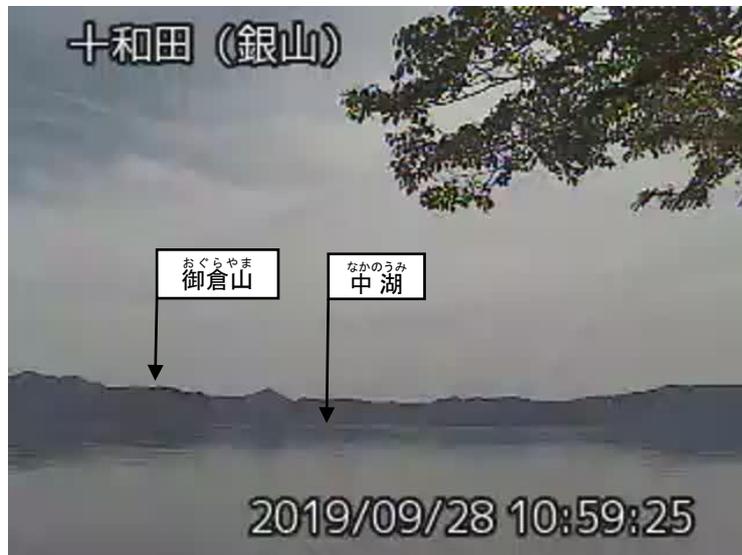


図1 十和田 中湖周辺の状況（9月28日）

・銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年10月分）は令和元年11月11日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

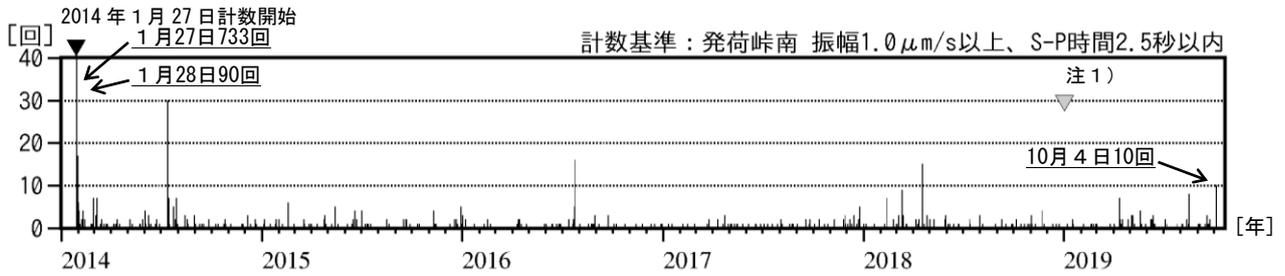


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2019年10月6日）

- ・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。
 計数開始 2014年1月27日～ 防災科学技術研究所小坂観測点
 注1) 2019年1月1日～ 発荷峠南観測点

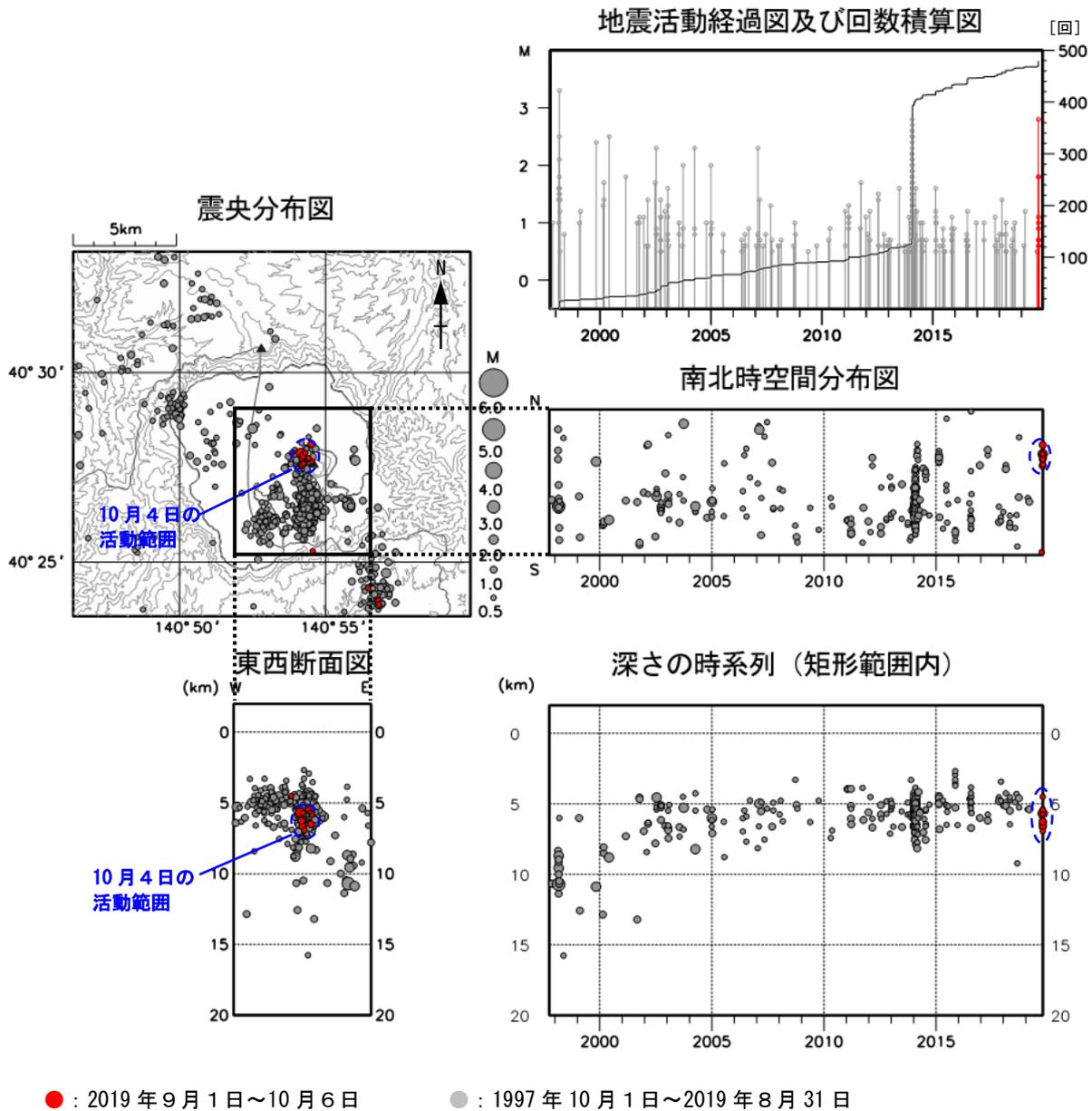


図3 十和田 広域地震観測網による十和田周辺の地震活動図（1997年10月～2019年10月6日）

- ・10月4日の活動範囲は中湖付近（青破線）です。
- ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

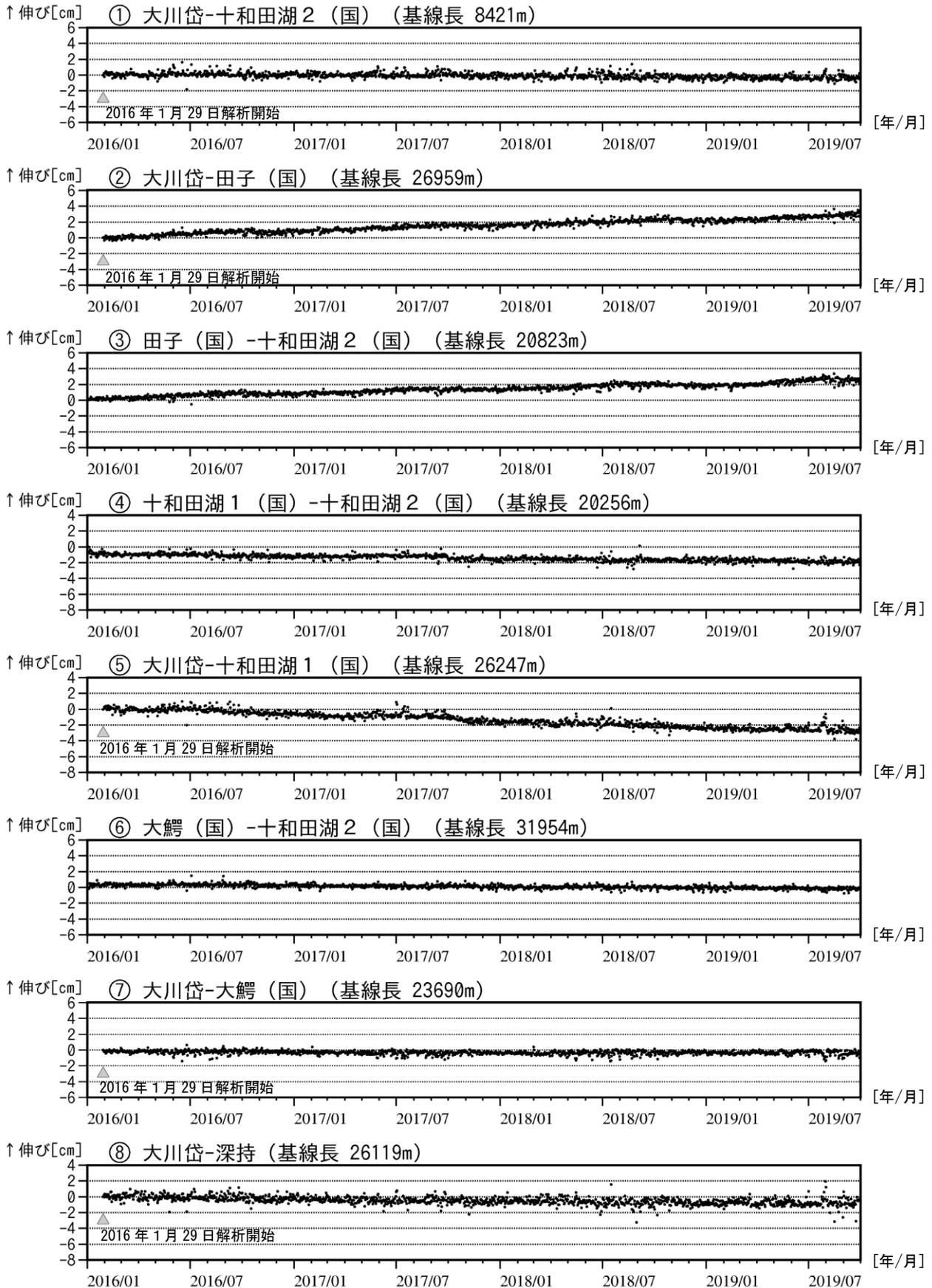


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2016年1月～2019年9月)

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

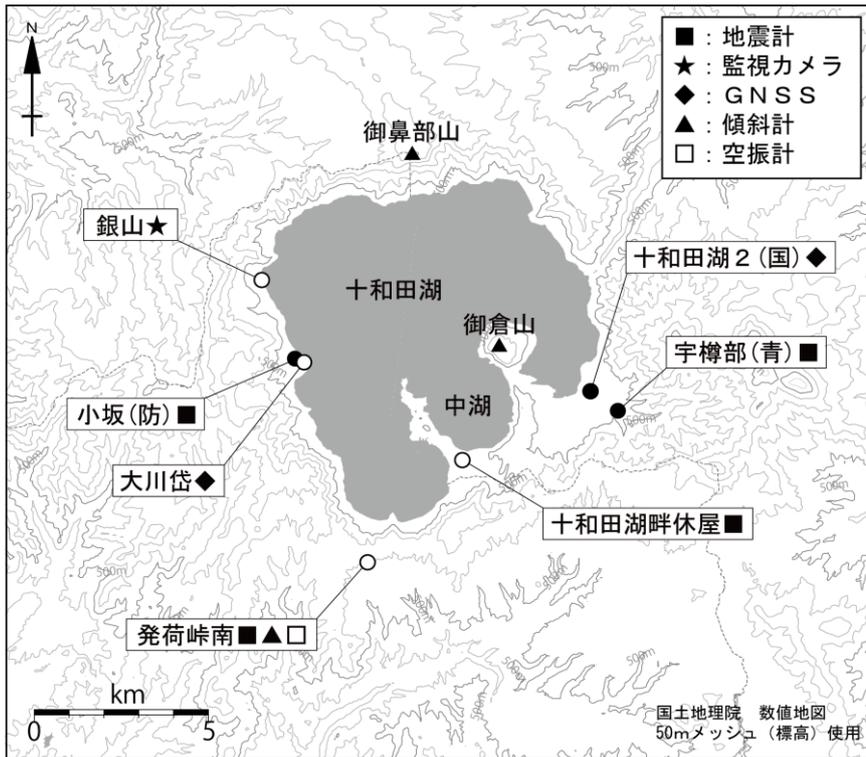


図5 十和田 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

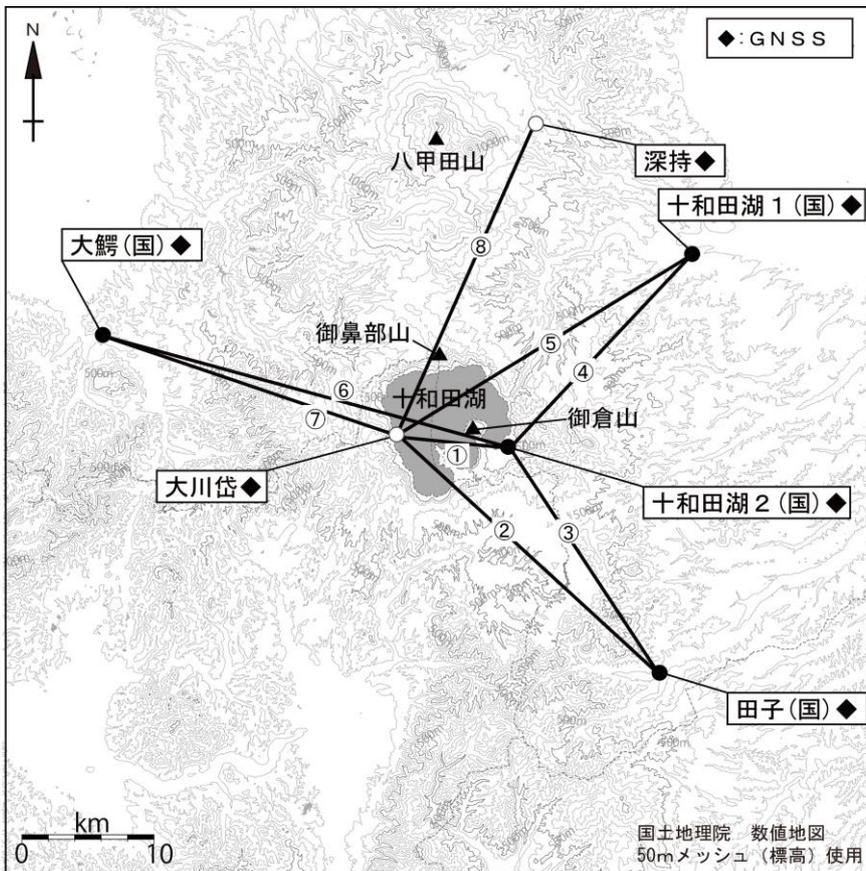


図6 十和田 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院